

## ウォルト ディズニー(DIS)

【セクター】 コミュニケーションサービス

【市場】 NYSE

## 【企業概要】

米国の大手娯楽企業です。世界各地のディズニーランドの運営、ディズニー映画のほかピクサー、マーベル、ルーカスフィルムなどを傘下に置く映画製作、テレビ番組の制作（スポーツ専門チャンネルのESPN、ABCテレビなど）を併営しています。部門別の営業利益は、パークス、エクスペリアンス&コンシューマー・プロダクツ部門が59%、メディアネットワークス部門が36%、スタジオ・エンターテインメント部門が8%、ダイレクト・トゥー・コンシューマー & インターナショナル部門がマイナス4%となっています（18年10-12月期）。

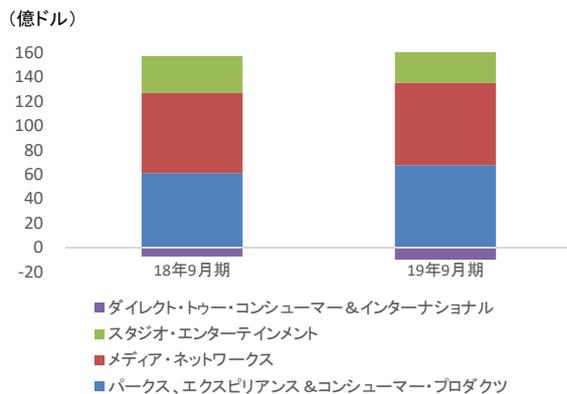
【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
18年9月期	59,434	10,641	7.06	1.68	32.5	23.6	54.7
19年9月期	69,570	8,319	5.02	1.76	49.8	12.1	53.0
20年9月期予想	81,516	9,424	5.47	1.88	52.5	11.2	-

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

## 【主要指標】

図表1 部門別営業利益



(出所) BloombergデータよりSBI証券が作成

図表2 ネット動画配信サービス（米国内、ピンクは同社傘下）

	月額料金 (ドル)	加入件数 (百万件)
Netflix	8.99-12.99	61
Hulu	5.99-11.99	約25
Disney+	6.99	約10
HBO Now	14.99	約5
Starz(ネット)	8.99	3.5以上
CBS All Access	5.99-9.99	約2.5
Showtime(ネット)	10.99	約2.5
ESPN+	4.99	約2
YouTube プレミアム	11.99	約1.5

注：Disney+は19年11月、その他は18年4月時点の推定です。

(出所) BloombergデータよりSBI証券が作成

## 【会社の見方】

米国ではケーブルTVの加入者数の減少傾向が続いて、ケーブルTV向けが主体の同社メディア事業はネガティブな影響を受けているため、ネットを通じて消費者と直接つながる方向で立て直しを進めています。スポーツ専門チャンネルのESPNではネット版の「ESPN+」を18年から、映画・ドラマでは「Disney+」を19年11月から投入しています。パーク事業は安定した人気により売上・利益とも着実に成長を遂げ、映画事業はヒット作の有無によって収益変動が大きいものの、中長期では拡大基調にあると見られます。

## 【見通し・注目点】

インターネットTVの「Disney+」は11/12（火）にサービスを開始、加入件数は既に1,000万を超えたと発表して、19年末に800万と予想していた市場を驚かせました。ネットフリックス、アマゾンのプライム・ビデオ、AT&T傘下のHBOなどと競合しますが、元々ライブラリーが充実しているうえに21世紀フォックスの映像コンテンツを買収して競争力は十分と考えられます。ただし、「Disney+」の立ち上げは、コンテンツの取得、マーケティング、技術への投資などで費用がかさみ、当面は利益を抑える要因になると見込まれます。

(SBI証券 投資情報部 榮 聡)

(更新日 19/11/27)

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。